



## 報道発表

2021年12月21日

### 米 Digestome Therapeutics 社への新規投資について

京都大学イノベーションキャピタル株式会社（以下「京都 iCAP」）（本社：京都市左京区、代表取締役：楠美公）を無限責任組合員とするイノベーション京都 2021 投資事業有限責任組合（以下「KYOTO-iCAP2 号ファンド」）は、京都大学の研究成果を活用するベンチャー企業である Digestome Therapeutics 社（以下「Digestome 社」、本社：米国カリフォルニア州、プレジデント：Ken Horne）への新規投資を実行しました。

#### ○投資の概要

Digestome 社は、京都大学農学研究科の大日向耕作准教授（食品健康科学講座）が新規に見出した化合物を医薬品として開発するために設立された創薬ベンチャーです。

大日向准教授はこれまでに、食品由来のたんぱく質分解物（ペプチド）に精神的ストレス緩和や食欲調節、記憶増強、血圧降下作用など様々な生理活性があることを明らかにしています。中でも DGX-001 と名付けたペプチドには、強い抗うつ様作用があることを動物実験などで確認しました。

うつ病の患者は全世界で 3 億人以上いるとされており、今なお増え続けています。うつ病は若年層の自殺の主原因となるなど多大な損失をもたらしており、その治療技術の改善は社会的な課題となっています。うつ病の治療は主に薬物療法に依存していますが、既存の抗うつ薬には作用機序のバリエーションが乏しく、また副作用が比較的強いという欠点があります。そのため、患者の約 3 割が既存の治療薬で十分な有効性を得られていないといわれています。

DGX-001 は経口薬であり、既存の抗うつ薬とは全く異なる作用機序（迷走神経刺激）により抗うつ様作用を発揮すると考えられています。また、消化器官内から血中に移行しないため、副作用の大幅な低減が期待されています。

Digestome 社は、DGX-001 を含む複数の食物由来ペプチドを医薬品として開発するための独占的商業化権を京都大学から供与されています。まずは DGX-001 の精神疾患治療薬としての薬事承認を米国で取得するべく事業を進めており、そのための資金として総額 1,000 万米ドルの調達に成功しました。

京都 iCAP は、画期的な抗うつ薬の登場は全世界の人々にとって大きな福音となる点、京



都大学が創製した化合物がグローバル市場で医薬品として開発されるのはこれが初めての事例である点などを評価し、Remiges Ventures、ANRIなどと協調して、100万米ドルを投資することとしました。

### **Digestome Therapeutics 社 概要**

設立	2017年12月
事業内容	抗うつ薬など精神神経領域の新規治療薬の開発
本社所在地	米国カリフォルニア州
プレジデント	Ken Horne

### **○京都大学イノベーションキャピタル株式会社（京都 iCAP）について**

京都 iCAP は、京都大学 100%出資子会社として、京都大学を中心とした国立大学から生まれた研究成果を活用する企業を対象に投資やその他の事業支援を行っております。当社は現在、総額 160 億円の KYOTO-iCAP1 号ファンド（2016 年 1 月設立）と総額 180 億円の KYOTO-iCAP2 号ファンド（2021 年 1 月設立）を運営しています。1 号ファンドの満期は最長 20 年、2 号ファンドの満期は最長 17 年に設定しており、基礎研究に強みを持つ京都大学の研究成果の実用化を長期にわたって支援することが可能となっています。また、2 号ファンドでは、一部資金を京都大学以外の国立大学発ベンチャーに投資することとしています。

#### **【お問い合わせ先】**

京都大学イノベーションキャピタル株式会社  
〒606-8317 京都市左京区吉田本町 36 番地 1  
事業企画部長 河野修己  
E-mail : [info@kyoto-unicap.co.jp](mailto:info@kyoto-unicap.co.jp)